

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022年4月19日

所属	サービス創造学部	職名	准教授	氏名	中村聡宏
研究課題	現代社会に求められるスポーツマンシップについての考察 ースポーツに内在する本質的かつ教育的価値についてプラトン哲学を中心に検証するー				
研究キーワード	スポーツ、スポーツマン、スポーツマンシップ、プラトン、哲学、尊重、勇気、覚悟	当年度計画に対する達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた	
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	10. 人や国の不平等をなくそう	16. 平和と公正をすべての人に	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2019年度、研究活動の一環として「スポーツマンシップ」の概念整理と議論機会の創出を目的に、仮説・提言をまとめ上梓した『スポーツマンシップバイブル』（中村聡宏，東洋館出版社，2020）の構成に基づき、今年度もスポーツマンシップに関する内容・構造・歴史的背景等について文献・論文を中心に調査するとともに、スポーツマンシップを教育に活用する「スポーツマンシップ共育」の概念を前提とした理論構築とそのエビデンス収集を進めた。</p> <p>スポーツマンシップ教育研究会（共同研究者：石井泰幸／2021年度全38回）等を通して、先行研究や、プラトン哲学を中心にソクラテス、カント、スペンサー、福澤諭吉、阿部生雄等から抽出した要素に基づき、スポーツマンシップに関する概念整理を進めた。プラトン哲学のなかでも「徳とはなにか」「徳は教えられうるか」「イデア論」等を分析的に読み解いてきた。人間力向上を実現するスポーツの本質的価値「スポーツマンシップ」の構成要素「尊重」「勇気」「覚悟」等の要素確認や、人材育成や社会課題解決を実現する論理構築について、プラトンを中心とする哲学的アプローチからエビデンスの抽出・整理を試みている。</p> <p>とくに、プラトンの『饗宴』では「美のイデア」について語られているが、その中で、ディオティマが語る「恋愛の正しき道」について注目すると、「美しき肉体」、「すべての美しき肉体」、「魂のうちにある美」「美しい人間の営み」「美しいものへの知識」そして「美のイデア」とその「観取」へと至ることがわかる。ここで取り上げられる「エロス論」は、若者たちがスポーツを通して獲得をめざすものの正体、そして、そこに介在する「正しい導き手」すなわち指導者の存在が色濃く示唆されている。</p> <p>この1年は、東京2020オリンピックおよび北京2022オリンピックでメダルを獲得したメダリスト約90人にインタビューを重ねることが叶った。彼らの話を通して、勝利という欲望に対するフィジカルや技術の向上を実現するトレーニング的アプローチのみならず、スポーツマンシップというモラル教育が人間力向上・競技力向上にもたらす価値についての新たな仮説にも迫ることができた。これは、彼らが彼らなりにめざしてきた「美のイデア」の存在と、彼らに影響を与える「正しい導き手」の存在を垣間見ることができたということもできよう。</p> <p>また、2020年度より自身が代表を務める日本スポーツマンシップ協会を通して、スポーツマンシップを指導できる「スポーツマンシップコーチ」の育成を始めている。正しい導き手、すなわち指導者の価値について再注目し、彼らの指導がもたらす価値や、選手・子どもたちに与える影響についての実感を得ることができた。この点については、今後あらためて調査対象として意識しながら、論理的な証明に挑むこととしたいと考えている。</p>					

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

特になし

3. 主な経費

- ・研究に伴う PC の購入
- ・研究に関連する書籍等の購入
- ・フィールドワークを伴う研究出張（京都・大阪）等

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の活動】

- ・日本スポーツマンシップ協会 代表理事
- ・公益財団法人東日本大震災復興支援財団 理事
- ・公益財団法人日本陸上競技連盟 指導者養成委員会委員
- ・一般社団法人日本バレーボール指導者協会 アドバイザー